

○姫路市地球温暖化対策実行計画（区域施策編） 新規施策（案）

	項目	改定後の施策体系
1	下水熱利用	2－3 新たなエネルギーの導入に向けた検討
2	水素利用	2－3 新たなエネルギーの導入に向けた検討
3	CCS 導入検討に向けた支援	3－4 火力発電のCO2フリー化への取組
4	文化・コンベンションエリアの整備	1－3 事業所における環境配慮に向けた取組み 3－2 緑地の保全と緑化の推進
5	環境に配慮した交通整備	3－1 低炭素型の交通網の整備
6	食品ロス削減	1－1 市民活動・事業活動における省エネに向けた取組

1 下水熱利用

大気温と比べ、夏は冷たく、冬は温くなる下水の温度差エネルギー（下水熱）を冷暖房や給湯等に利用することで、省エネ・省CO2を図ることが見込まれる。

下水熱を利用するにあたり、熱需要が高い中心市街地における下水の賦存量や存在位置を示すポテンシャルマップを作成する等、下水熱の利用促進に向けた環境を整備していく。

2 水素利用

高いエネルギー効率を可能とする燃料電池の活用による省エネ効果等、水素は環境負荷低減につながるエネルギーとして期待されており、国が水素社会の実現に向けたロードマップを作成する等、取組を進めている。

本市では、既に家庭用燃料電池（エネファーム）の設置に係る補助制度を設けているが、これに加え、今後、燃料電池自動車の普及に向けた水素ステーションの設置等について検討を進める。

3 CCS 導入検討に向けた支援

本市には、複数の火力発電所が所在し、新たな火力発電所を建設する計画もある。これらについて、現在、商用化に向けて取組が進められている CCS について、事業者に対し導入検討に向けた支援を行う。

4 文化・コンベンションエリアの整備

姫路駅周辺の文化・コンベンションエリアで整備を進めている（仮称）姫路市文化コンベンションセンターにおいて、省エネ機器、屋上緑化・壁面緑化・太陽光発電設備等の導入を検討するとともに、周辺で整備が予定されている1号公園において緑あふれる空間を創出する。

5 環境に配慮した交通網の整備

主要道路の整備による自動車交通の円滑化や公共交通機関の利用促進を通じて、温室効果ガス排出量を削減する。環境に配慮した交通網の整備に関して、以下の3事業を重点的に取り組む。

（1）英賀保駅前土地区画整理事業

棚田踏切の立体交差化の事業を進めることで、周辺道路の渋滞緩和による自動車の燃費向上及びJR英賀保駅へのアクセス性の向上による公共交通機関の利用促進を図る。

(2) JR 姫路－英賀保駅間の新駅整備

JR 姫路－英賀保駅間の新駅整備により、スポーツ・文化施設が集約されている手柄山中央公園等への鉄道によるアクセス性の向上により公共交通機関の利用促進を図る。

(3) 姫路駅南広場の整備

駅前への通過交通の流入抑制により人と環境にやさしい回遊性の高い都市空間の創出、バス・タクシー等の公共交通と一般車を完全分離することで交通結節機能を強化し、公共交通機関の利用促進を図る。

6 食品ロス削減

売れ残り・食べ残し等本来は食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は、食料資源だけでなく生産及び流通に係る資源・エネルギーの無駄となるほか、廃棄処分の焼却に係るエネルギー浪費にもつながる。

家庭や流通における食品ロスの現状を伝え、先進市の事例（松本市の 30・10 運動等）を参考に、食品ロス削減に向けた取組を行う。